

あんなとこ、こんなとこ③

地域の身近な

歴史スポット⑫

懐かしの鉄管原

原田 弘

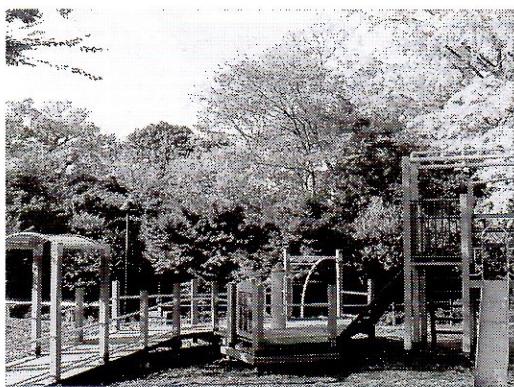
戦前までは、私どもの住む和田・つちこつちにあつたものですが、主なもの二つ紹介します。今青梅街道と環七の交差点の北側に「庚申様の原」という広い原があり、夏には余興などが行われ蚊に喰われながら見に行つたものです。

この北隅にはケヤキの大木があり、その根本に庚申堂があり、いつもお花がありました。

今この複数の庚申塔は環七の東側に移されています。又このお堂の脇に鉄の火の見櫓が立つて、上に半鐘が吊してありました。



高円寺南1丁目庚申堂



梅里公園から見た真盛寺の森



真盛寺入口

戦時色が濃くなると、ここで警防訓練をしたものでした。しかし周辺には二階以上の建物はなく、夕暮れになると富士山が森など間からよく見えました。

の南側にある都営住宅、梅里公園で真盛寺の門前までの広い地域でした。ここに昭和の初め荒玉水道（玉川から北区へ）が設けられたが、その工事拠点としてこの原っぱが利用され、バラック作りの建物があつた。工事終了と共に取り払われ元の原っぱになつてしましましたが、名前だけは「鉄管原」と残ったのです。セシオン杉並の処は草野球のグランドになつてきましたが、南側はそのまま、子供たちの絶好の遊び場、源氏とか平家という大型のバッタやらギンヤンマなどと云う大型の貫禄あるトンボなどが飛び、蚕糸試験場の白衣を着た職員が生糸の先を結んでトンボの目に投げ、食い付いて落ちるのを捕まえていました。

さてここでは「鉄管原」について述べたいと思います。この地は今のセシオン杉並と、そ

時には兵隊が機関銃や大砲を訓練で空砲を撃つて人々を驚かせたこともありました。昭和の一桁の鉄管原を思い出すま



真盛寺入口

原田 弘 氏

杉並郷土史会会長・(元)日本歴史学会会員・杉並区文化財保護指導員・日本ペンクラブ会員